

シニアボランティアとして1年経過して

シニア海外ボランティア 河合 泉
派遣国 マレーシア
職 種 福祉施設運営アドバイザー

昨年の7月上旬、クアラルンプールでの10日程のガイダンスやマレー語の研修を終えて、ココタキナバルに来て、早くも1年がたちました。今年の春まで、豊橋国際交流協会の機関誌に連載してきた内容と違う観点から、マレーシアを知ってもらおうと、近年の歴史から始めて最近の生活などを報告したいと思います。

マレーシアは、太平洋戦争終わりごろ一時期、日本軍に占領されたことを除けば、長い間イギリスの植民地として統治され、戦後その軍政に反発したマレー人が民主運動の成果として、1957年独立しました。現在は中東諸国やアフリカのように多民族国家なのに、お互いの宗教や生活習慣を尊重して、紛争がありませんが、独立後、植民地時代に移民した華人やインド人が経済的な実権を握り、多数派の貧しい生活をしているマレー人との間で、1969年の選挙の時やはり大きな衝突がありました。この民族暴動を教訓にして、のちの首相は、ブミプトラというマレー人の教育と経済状況を優遇する政策を取りつつ、一方では日本や韓国の成功例に学ぼうと多くの留学生や研修生を派遣し、また2020年には、先進諸国入りしようとの目標を掲げて邁進し、今では東南アジアでは先頭集団に入る経済発展国になっています。



【福祉分科会のメンバーと】

最近の日本との関係を見ると、1966年から日本政府の資金援助や技術協力、それにJICAの人的援助を通して、大きな支援を行い深い結びつきができています。そのためか、マレーシアには自動車会社をはじめ多くの日系企業が進出していますし、首都のクアラルンプールの国際空港は、有名な日本人が設計したせいもあり、日本語の案内もあります。JICAのボランティアも一時

期には、100人を超える人が来ていたそうです。

話は、私のボランティアの任地先ボルネオ島のクタキナバルに移します。ここはマリンスポーツの有名な都市で、多くの日本人がダイビングを習いに来ていたそうです。そのせいか、日本人とわかると挨拶してきて、とても親しみがわいてきます。ところで、今はムスリムの人たちのラマダンという断食の時期で、日中の日が登っている時間は何も飲み食いしないでいる彼女らに気兼ねしながら食事をしています。彼女ら（配属先はほとんど女性です）の法律だそうですが、まねのできない辛抱強さですね。それで、この時期夕食を買っていく人のため、近くの広場ではおいしそうな食べ物がバザール（露店）に並びます。私も、たまに見に出かけ、日ごろ食べない健康によさそうなものを買って来ます。

さて、私のボランティアも半ばを過ぎ、配属先NGOのスタッフや利用者、保護者とも次第に顔なじみになってきて、日本へ行ったことのある人やこれから行く人などが声をかけてくれます。活動のことについて報告すると、やっと先週末、現場職員対象の4回目のプレゼンテーションも終わり、そして有機栽培では、自分では作ったことのないスイカや冬瓜の栽培に挑戦しています。



【プレゼンテーションの様子】

日ごろの生活で体調管理が一番大切ですので、ジョギングを欠かさず続けています。去年は、もともと胃腸が丈夫でなかったことも災いしたのか、熱帯に特有の脂っこい食事や、チリなどの香辛料や水が合わないのか、胃腸の調子をたまに崩しました。今年は町の魚市場や青果市場などに定期的に通って、なるべく新鮮な食材を手に入れ、趣味の日本的料理をつくりながら、そして、たまに日本の胃腸薬に頼りながら何とか体調を維持しています。つい最近も、BBCニュースで世界一長寿の国として、日本料理の良さを取り上げていたことに、心強く思ったところです。